

公益財団法人 日本バレーボール協会  
2018年度 運営方針について

本協会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

<基本方針>

■公益財団法人としての透明性の確保

ガバナンスの確立、コンプライアンス強化をはじめとする組織の厳格な運営、適切な情報開示

■JVA運営における目的と手段の明確化

JVAが解決しなければならない課題や目標を明確にし、それを達成するための具体的な手段を確立する。

■JVAと加盟団体とのコミュニケーションの促進

加盟団体との連携強化、JVA・加盟団体が果たすべき役割の明確化、情報の共有

■「2050年構想」と「中期計画」

・「2050年構想」… 2050年構想を「バレーボール界の将来のあるべき姿」と位置付け、引き続き実現を目指す。

・「中期計画」…… 2050年構想を実現するための5年毎のステップと位置付け、中期計画を策定・実行する。但し、既存の2016～2020年度中期計画については、必要に応じて見直しと修正を加える。

<基本方針を推進するための施策>

■「強化」

- ・2020東京オリンピックに向けた年次毎の強化計画の策定と確実な実行  
特に20歳前後の若手の特別強化に力を入れる。
- ・ビーチバレーボール事業の特別強化、普及のための実行計画の策定  
2020東京オリンピックまでの年次毎の実行計画を策定し確実に実行する。  
特に加盟団体との連携・協力体制を明確化する。

■「普及」

- ・競技者人口の拡大
- ・指導者の育成（指導者数の増と指導者の資質向上）
- ・体罰・暴力、ハラスメントの撲滅
- ・加盟団体との連携強化、加盟団体との役割分担の明確化、課題集約

■「連携」

- ・加盟団体とのコミュニケーションの促進とJVAの安定経営のための施策の検討
- ・評議員会と理事会のあり方の検討
- ・JVAと日本バレーボールリーグ機構は、バレーボールに関わる全ての分野において垣根を作ることなく「連携」し、「強化」と「普及」の推進に邁進する。

■「攻め」

「強化」「普及」「連携」の3つのキーワードに加え「攻め」への姿勢転換を図る。

- ・JVAの各種事業に関する積極的な広報・告知によるプレーヤー、観戦者、スポンサーの増加
- ・自己財源の確保ができるJVAへの体質転換による2020東京オリンピックに向けた活動エネルギーの蓄積